



技術士だより

(社) 日本技術士会九州支部・九州技術士センター夏季号<第64号>(平成17年6月15日発行)

巻 頭 言

第32回技術士全国大会を成功させよう

第32回技術士全国大会実行委員長

支部事業委員長 甲斐 忠義 (建設・福岡)

第32回技術士全国大会(福岡)の本大会が本年10月19日開催されます。関連行事として前日の懇親ゴルフ大会、ウェルカムパーティー、大会当日のレディスコース見学会、大会翌日から1泊2日のテクニカルツアーと4日間に亘ります。

昨年1月実行委員会を立ち上げ、大会顧問、大会委員長の指導のもとに総務委員会、分科会委員会、記念誌委員会、研修見学委員会、財政委員会に役割を分担し、総勢27名で準備活動中です。

今回の大会テーマを「技の連携・培う地域の新文化」としています。あらゆる地域産業の技術開発と活用は、産官学の連携によって進められていますが、この連携の枠に技術士が参画することによって連携はよりいっそう強化されると期待しています。培われた地域産業は、地域の安全・安心に寄与し、地域の繁栄をもたらし地域の新文化を醸成すると思います。企業のMOT(マネジメント オブ テクノロジー)の推進や中小企業同士の新たな連携を後押し、共同で新事業を起こすことを目的とした中小企業新事業活動促進法(経済産業省H17・4・13施行)、都市再生の推進を目的としたまちづくり交付金制度(国土交通省)など技術士が今後関与する業務は多いと考えられます。今回の大会を機に躍動する技術士会活動を目指さなければなりません、そのためには、建設コンサルタント協会、土木学会、機械学会などあらゆる学協会との連携を強化し、大学TLOや官の産業支援窓口との連携を強化していくことが望まれます。

大会の各分科会では行政や学識経験者の基調講演と技術士の活動体験から今後の技術士会活動の提案を行います。第1分科会の「アジアへのかけはし」は、経済交流、人材交流、観光、物流の観点から取り組み事例を報告します。APEC技術士として活躍するためには、アジアの問題を勉強していく必要があることから取り上げたものです。第2分科会の「環境保全と安全・安心の国づくり」は、環境基本法による持続型社会のための環境への取り組みと、多発する自然災害に対して技術士が関与していくことをねらいとしたものです。第3分科会の「地域振興とNPO法人との協働化」は、地域分権化の進展と地方の自立による活動の広がりを受け、今後更なる発展に技術士が指導的立場で協働化に参画すべきであることを提案するものです。第4分科会の「技術者倫理」は、技術士業務の実施に当たっては、常に高邁な倫理観が求められていますが今後なお一層、技術者倫理の取り組みをしていくために取り上げたものです。第5分科会の「青年技術士の活動」では、昨年九州支部でも第7部会として青年技術士部会が開設されましたが、全国各支部でも取り組みが活発化している現状です。この取り組み活動について意見交換を行うと共に日本技術士会の今後の活動に対する提案等が行われます。

大会記念講演は、時事進歩する科学技術の最先端技術を講演していただくもので「水素利用社会の実現に向けて」と題して九州大学大学院の村上敬宜教授にお願いしています。

交流会では、立食パーティ形式で行います。アトラクションを楽しみながらの美酒とご馳走を味わいながら参加者の交流・親睦をはかり人脈の拡大につなげて欲しいと思います。

過去の九州での開催は、昭和53年7月(福岡市)、昭和63年10月(別府市)、平成9年10月(福岡市)、に行われています。その時々々の大会テーマを見ますと、社会的背景を反映しながら大会が運営されて来た事がよくわかります。そして多くの先輩の技術士が大会の準備運営に汗を流し、実績を残してきたということを準備に携わりながら実感しています。そして今私たち実行委員会が、大会に集う技術士の明日の活躍の場づくりに一役買っていくという自負の元に全員がんばっています。大会への参加と熱心な分科会討議など、大会の成功に向けてご協力を切にお願い申し上げます。

CPD委員会活動に参加して

伊藤 整一（建設、総合技術監理・福岡）

昨年10月より、支部CPD委員会の一員として技術士会活動に参加させていただいている。支部CPDの第2ステップ活動として会員の資質向上のお役に立てよう新機軸を打ち出して行きたいと考えているが、正直なところ障碍も多々あり力量不足を感じている状況にある。

支部としてのCPD（ここでは集団研鑽）はどの部門の技術士にも普遍的な「一般共通課題」を中心にしかも広範囲且つ魅力ある研鑽が行えるよう心がけているところである。

CPDは技術士法によって定められた資質向上と職業倫理感の責務認識に寄与する機能を果たしている事は疑いのない事実であるし、今後法律による規制より実務的な角度から義務化されて行くのは当然の流れである。既に国土交通省九州地方整備局発注の一部業務では技術士のCPDを評価する動きがある。しかし支部CPDへの参加者は、北九州など一部の地区を除いて認識が浅いのか少数であり且つ年齢層に偏りがある。

1月29日の支部CPDにおいてアンケートを実施した結果では、聴講者98名、アンケート回収率72%、年齢構成40歳台以下11%、50歳台15%、60歳以上71%であった。即ち参加者の過半数はいわゆる現役を引退またはそれに近い状況にある技術士あるいは独立技術士である。そういった方々にも勿論CPDは必要であるが、本来は現在技術士業務を日夜担当している実務者が出来るだけ多数参加されることが望ましい事である。

この歪な現象の原因は種々考えられるが、今後支部CPDが本来の目的を発揮して行くための対策として、幾つかの提案をしてみたい。

第一に集団で行うCPDでは、会場費用及び講師への謝礼並びに諸経費のため、幾ばくかの参加費を徴収するが、この参加費を極力低額にする努力が必要である。尤も自分に対する言わば投資を惜しむ者や、その僅かの参加費を自分が所属する組織に負担

して貰うなどは論外と言うほかはない。

第二に技術士会として技術士の属する組織に対しCPDの重要性を積極的にPRする必要がある。CPDの必要性をご存知ない組織は多いと考えられるからであり、組織を啓蒙し属する技術士に研鑽会への参加を促させる事が必要である。日本技術士会としても、新聞その他のメディアを適宜活用して技術士に必要なCPDを大いにPRする必要がある。本部ではこのほどCPD登録証明システムが確定している。

第三にCPDの内容が魅力あるものでなくてはならない。これは我々CPD委員会として最も努力すべき課題である。更に技術士のCPDとしても権威あるものでなければならず、九州支部では関係者の努力によって、審査委員会による審査システムが確立しつつあるのは結構なことである。

支部CPDは、多忙な実務者が参加し易いように、四半期毎の第1月の第4土曜日に6時間（6単位）の集中講座として開催しているが、今後地方での開催、テーマの選定などについても充分な検討を行って行かねばならない。

第四は、出来るだけ多数の技術士が日本技術士会へ入会し、その上で多くの方に技術士会活動に参加していただくことである。活動に参加することによって、CPDへの認識も高まるものと考えられるからである。現在ボランティア精神に溢れた技術士の方々が自分の空いた時間を提供して日夜活動を続けてはいるが、一部の技術士だけに負担がかかることを是正しながら出来るだけ多くの技術士が活動に参加し、共に学び共に研鑽をし向上して行くことが望まれるところである。

所属組織の階層感覚を技術士会の活動にまで持参する事だけは控えながら、多数の技術士の方々がCPDへ、更には会の活動へ積極的参加されることを期待するものである。

理事会等中央情勢 概要報告

(社)日本技術士会 前理事 小出 剛 (農業・福岡)

前号から本号までに、次のような理事会及び関連の主要会議がありました。

①四役常設委員長会議：2回、②理事会：2回、③組織・制度改革本部委員会：3回、③業務委員会：4回。但しこれらの会議は理事会を中心に同日の午前・午後又は翌日等に区分して開催し、時間と経費の省力化のためタイトな日程で行われました。

I. 平成16年度第6回理事会・概要

(平成17年3月17日)

1. 国際特別委員会の委員構成について

前回理事会で設置承認した本委員会のメンバー構成を決定、定員10名とし、津田隆東大生研教授(建設)等6名を当面の委員とする。

2. 会長表彰制度の改定について

従来の会長表彰制度を発展的に解消し、今後の日本技術士会に適応した表彰制度とする。①在会35年以上の会員。②在会10年以上で、支部・部会活動で貢献し、各々の長から推薦された会員。③論文、著作、技術士業務等で、技術士会、技術士制度又技術士知名度の向上や活性化等に寄与し、会員3名以上の推薦を得、理事会で承認された会員。

3. 技術士CPD登録証明書の発行について

前回理事会では、証明書発行様式を決定していたが、今回で、具体的様式、手数料等を決定し、17年4月から発行可能となった。(契機となった九州地方整備局には3月末に詳細報告と御礼を光岡支部CPD委員長と小出が行い、5月に、会長名による局長宛文書を施行した)

II. 平成17年度第1回理事会・概要

(平成17年5月11日)

(審議事項)

1. 平成16年度事業報告、収支予算について

(1) 事業報告：一般事業、受託事業、試験・登録事業に区分した説明になっているが、特に注目すべきは、「技術士ビジョン21の策定」とこれを具現化するための「組織・制度改革への行動指針」の策定が最も大きな事項と言える。次に各支部活動状況報告を

昨年より更に増強した事で、支部への理解度が増大した。

(2) 収支予算：一般、CPD、受託、特別の4会計を総括して、収入合計1,572,581,751円、支出合計1,410,796,408円、次期繰越収支差額161,785,343円となった。(この項については、6月24日定時総会案内で詳細が送付されるので、ご覧頂きたい)

2. 専務理事、常務理事の選任について

任期末の常勤理事3名(竹下功専務理事、畠山正樹常務理事、大谷邦博常務理事)を再任する案で定時総会に諮る事となった。

3. 第47回定時総会の開催日時・議題について

日時：平成17年6月24日14:00～15:45

会場：虎ノ門パストラル 鳳凰の間

議案；1号：16年度事業報告・収支決算

2号：専務、常務理事の選任について

報告；役員選挙結果報告

※ ；総会終了後、会長表彰、懇親会を開催

4. 新名誉会員及び会長表彰者について

新名誉会員14名、会長表彰者68名を決定。

九州支部からは古賀忠、長崎治夫、棚町修一、帆足建八、藤永正弘の5先生が受賞される。

5. 原子力・放射線部会設立について

原案通り承認された。(当初正会員21名)

6. 実行委員会の設置について

従来の「青年技術士懇談会」を「青年技術士交流実行委員会」に改組し政策委員会の下部組織とする。

7. 技術士ビジョン21に基く「組織・制度改革への行動指針」について

「日本技術士会組織のあり方」「事務局組織のあり方」「委員会のあり方」「部門区分の検討」「定款・諸規定のあり方」「組織率50%以上に向けた行動」の6項目について、昨年11月から半年かけて委員会、幹事会、理事会、部会、支部長会、で案作成・検討がなされ、各位の意見を踏まえて、最大公約数の内容となった。本件だけで約1時間の審議を行い、円滑に、大多数の賛成で承認された。詳細は後日、全会員に配布される予定。

(報告事項)

1. 平成16年度第2回臨時総会（H17. 3. 17）

17年度からの会費変更（24,000→20,000/年）及び17年度事業計画・収支予算計画が原案通り承認された。（会員総数10,704名、出席会員；委任状6,138名を含め6,265名）

2. 組織・制度改革本部委員会議報告

第4回（3月17日）、第5回（4月13日）の経過を報告。

3. 平成17年度技術士第2次試験申込状況

部門別、試験地別の申込状況報告あり。

（20部門計；25,586名、総監；5,865名、合計；31,451名）

4. プロジェクトチーム解散報告

「環境・リサイクル・エネルギー産業支援グループ（九州・斉藤清美代表）」は今後、CEクラブに移管するとして、解散届けがなされ、業務委員会で承認した旨報告した。

5. 会員・準会員・賛助会員の3月末現在報告

会員；10,898名、準会員A；18名、同B；2,833名、賛助会員；229社

Ⅲ. 第3回組織・制度改革本部委員会・概要

（平成17年3月17日・10時～11時30分）

事務局組織、委員会組織、部門区分検討、定款・諸規定の4項目について、これまでの検討・修正結果を踏まえた案について討議した。

結果を幹事会で、細部再検討する事とした。

Ⅳ. 第4回組織・制度改革本部委員会・概要

（平成17年4月17日・13時30分～18時）

前回検討の4項目の他2項目を加えて全6項目について集中的に討議した。この日の議論と幹事会案とを総合的にまとめ、行動指針案として、各委員により再修正された案を全役員、部会長、支部長に照会し、それらの再修正案を第5回本委員会に諮り、理事会審議事項として上程する事とした。

大型連休を含め4～5月初旬は私共委員・幹事は勿論、上記関係者の検討作業期間となった。

各位からのご意見にも厚く御礼申し上げたい。

Ⅴ. 第5回組織・制度改革本部委員会・概要

（平成17年5月11日・10時～12時）

「組織・制度改革への行動指針」の最終的な内容検討を行った。

当初原案には、細かい具体例や数値が含まれていたものを、次の執行部での検討余地を残すため、骨

子だけの行動指針案に修正されていたが、全委員の合意までには至らなかった。このまま理事会に持ち込み、賛否が相半ばすれば、例え承認通過したとしても、次の執行部に引継ぐには問題が多く、禍根を残す事を懸念した私共は「まえがき」の内容から一部削減を提案した。

その結果、反対意見の委員には刺激緩和、賛成意見委員には譲歩の形となり、委員会での全員合意を得た。

当日午後の理事会でも、円満な結果が得られる様に、微力を尽くし、会長のリーダーシップにより、良い結果となり安堵したしだい。

Ⅶ. 業務委員会活動について

特に、2期目の理事選挙では皆様から絶大な得票を頂いたお陰で、支部からは初めての常設委員長（業務委員長）を拝命する事が出来ました。H15年7月の引継ぎ書類とそれまでの先輩委員長達が手がけられた内容を検討したが、中々難しい委員会である事が判った。

H15年8月に第1回委員会を開催し、私は冒頭で、この委員会が他委員会と比較して、多くの対外的な折衝を要する委員会である事、言い換えれば「技術士とは？」「技術士会とは？」「技術士の活用促進を！」の三つを対外的に如何に営業し、会員の付託に応えるかを常に考え運営して行く委員会であるので、「今一度原点に立つ必要あり」と力説し全委員の賛同を得た。

早速、各委員の得意分野、希望分野を取り纏め、分担を決め、各部会・支部からの活用に関する要望事項を聴取し、これを基に関係省庁・機関別、民間団体別に区分し、更に折衝や結果が出る次期を短期・中長期に推定区分し、5年間の行動計画表を作成した。まず、技術士所管の文部科学省科学技術・学術政策局基盤政策課長との相談から始め、続いて全省庁、主要民間団体等を委員が分担して折衝行動を開始した。必要に応じて、他の理事、部会長の協力も得ての行動もあった。この間の経緯は、「月刊技術士」「年次報告」更には「技術士ビジョン21の意味するところと今後の活動方針」と題したPPTによる内外での啓蒙や研修資料も作成した。また最近では学会誌にも掲載した。

しかし皆様もお判りのとおり、技術士活用促進には、総論・各論でも大きな乖離があり、各セクションの壁も厚い。想像以上でした。

来る6月22日の最終委員会では技術士活用促進活動と成果について取り纏め、全会員に報告する予定。

そして、中央省庁、民間団体を対象とした委員会行動と各部会、支部での行動でも、大小・各種の成果も現れている。ここでは、中央省庁関連成果の一部を紹介すると、①建コン登録規定への衛生工学部門（選択「廃棄物管理」）の追加。②特定工場における公害防止組織に関する法律規則の中での技術士（各部門・選択科目別）活用の追加。③技術士会主導によるJABEE 審査員への技術士登録制度確立。④原子力安全委員会の「原子力事業者の技術的能力に関する審査指針」に、ほぼ全部門の技術士が「専門知識及び技術を有する技術者」として位置づけられた。⑤その他、がある。

あとがき

4年間に渡り、拙い中央情勢報告をご覧いただきまし

て、誠に有難うございました。今後は一会員としても、折角皆様のお陰で得る事のできた、経験・知識を生かし、更に研鑽を積みたいと思います。末永いご指導の程をお願い上げます。前広報委員長の完戸先生、現委員長の棚町先生には、編集に当たり多大のお世話になりました、心から感謝申し上げます。



第5回組織・制度改革本部委員会を終えて。

平成17年度第1回全国支部長会議報告

前九州支部長 泉館 昭雄（電気電子・北九州）

日時；平成17年5月17日。

場所；ホテル日航千歳（北海道、千歳）

出席者；安藤・鎌田副会長、竹下専務理事、畠山・大谷常務理事、大島（北海道）、吉川（東北）、中山（北陸）、辻（中部）、加藤（近畿）、牧山（中四国）、泉館（九州）各支部長、他。

I. はじめに 清野会長検査入院中につき、安藤副会長より下記挨拶があった。現執行部での最後の理事会（5月11日）で、「組織制度改革への指針（案）」を審議した。本案は次期執行部で継続して検討することとしている。本案起案の目的の一つは、会員組織率現行20%から50%に上げる事に向けたもので、目標達成した状況での技術士会のGOVERNANCEは支部が中核となることは必須である。

II. 本部報告

1. 技術士ビジョン21・アクションプラン、「組織制度改革への指針（案）」；

第一段階の組織・体制案を構築した。会員数5万人となる時点で、第二段階の検討が必要である事も考慮した。本部一支部一県の三層構造は、略固まった。主要課題は、*部会の扱い*全体工程確立*公

益法人改革（H17予定）との整合性、等である。

<自由討議> *契約権限の委譲は喫緊の課題である。*契約事象の、経理作業或は一般的法的対応については、一定期間本部の専門家（弁護士、会計士等）の支援が必要*会費削減に伴う会員増のアクションプランが必要*部会の担う役割が時代と共に変化する事の認識について*支部・部会相互乗り入れ*合格者氏名、住所情報の入手は必須、*事務局強化の必要性、他。

前記指針に対する会員の意見は、「意見と対応」として整理されている（A4—42頁）。九州支部から1名提出。

2. 諸報告（理事会、臨時総会他報告の関係部分抜粋）、；*青年技術士懇談会を実行委員会とする、*H17年度技術士報酬金額は、前年度に同じ。*二次試験申込者数 技術士会合計／九州支部 31,451名／2,896名*各支部会員数——表1参照、*個人情報保護規則は4・1～施行。同意した利用目的に限定して使用する。——本部に「情報セキュリティー室」設置した。⇔支部対応体制要検討、*会長表彰九州支部は、古賀忠氏、帆足建八氏、藤永正弘氏、長崎治夫氏、棚町修一氏の各先生です。

III. 支部報告

1. 北海道支部；* 工事監査業務に向け支部独自の取り組みをする。* 支部会員増強対策—合格者情報入手要請 * 9 月に地域産学官セミナーで防災会議実施予定
2. 東北支部；* 支部規約改正 {役員公募制} * 工事監査業務拡大に向け支部独自の取り組みをする。
3. 北陸支部；再来年、日韓技術士会議は新潟ですることになるかも
4. 中部支部；* 支部の日キャンペーン、* 愛・地球博案内コーナー設置、* 会長の会員による直接選挙、停年廃止、リコール制度併設を提案する、* C P D 審査体制整備⇒本部に審査委員会設置する方向で検討してはいかがか。九州支部の組織説明した。

5. 近畿支部；支部組織が他と異なる現状説明。多くの会員は、民間企業対応している。
6. 中・四国支部；* 実効性のあるアクションプラン構築を要請する。* 事務所移転、機能・利便性大幅向上。* 各支部事務局調査結果
7. 九州支部；* 事業活動の活発な状況説明、* 一次試験及び技術士制度について大学生・院生への説明会実施 * 業務開発事例（ものづくり大賞審査、新連携事業等） * C A S H F L O W 問題説明他
- IV. まとめ 制度・組織改革案がまとまった。この具現に向け更に動きが活発となり、着実に進展するよう会員諸先生のご協力と行動を切望する次第です。

表 1 各支部会員状況（北海道支部まとめ）、正会員+準会員 H17, 3

	北海道	東北	北陸	中部	近畿	中・四国	九州
支部会員数	550名	662名	565名	1119名	1134名	906名	1028名

第32回 技術士全国大会(福岡)のご案内

大会テーマ 期間 2005年10月18日(火)～10月21日(金)
「技の連携・培う地域の新文化」 会場 ホテルニューオータニ博多（福岡市中央区渡辺通1-1-2）

【大会実施要領】

1. 大会前日 10月18日

内 容	時 間	場 所	参 加 費
懇親ゴルフコンペ	8：00～18：00	ジェイアール内野カントリークラブ	6,000円
ウェルカムパーティ	18：00～20：00	博多湾ディナークルーズ	5,000円

2. 大会当日 10月19日

日 程	時 間	内 容	参 加 費
10月19日(水)	9：30～12：30	第1 アジアへのかけはし	8,000円
		第2 環境保全と安全・安心の国づくり	
		第3 地域振興とNPOとの協働化	
		第4 技術者倫理	
		第5 青年技術士の活動	
	13：30～14：30	記念式典	8,000円
	14：35～14：40	大会宣言	
	14：40～15：40	分科会報告	
	16：00～17：30	記念講演 九州大学大学院工学研究院教授 村上 敬宜氏 「水素利用社会の実現に向けて」	
	18：00～19：30	交流パーティー	8,000円

3. 大会翌日 10月20日～21日

内 容	場 所	参 加 費
テクニカルツアー	鹿児島方面（知覧・仙巖園・指宿温泉他）	38,000円 （宿泊＋往路）

分科会

分科会テーマ	主 査	副 主 査	基調講演者と演題
第1分科会 アジアへのかけはし	三浦 哲彦 (建設・総監・工博)	伊藤 整一 (建設・総監)	福岡県企画振興部 次長 権現 昭二 「福岡県が進めるアジアとの交流」
第2分科会 環境保全と安全・安心の国づくり	中村 勲 (建設・総監)	鶴島郁之輔 (建設・総監)	北九州市環境局 局長 垣迫 裕俊(建設・総監) 「自治体における都市環境管理政策」
第3分科会 地域振興とNPOとの協働化	斎藤 清美 (衛生・工博)	藤永 正弘 (建設)	NPO法人大分環境カウンセラー協会 理事長 須股 博信 「九州の水と緑と豊かな暮らし」
第4分科会 技術者倫理	沖部 俊昭 (経営・総監)		北九州市立大学国際環境工学部 教授 松藤 泰典(工博) 「倫理的意思決定のプロセス」
第5分科会 青年技術士の活動	田辺 努 (機械・総監)	真鍋 和義 (上下水道・総監)	青年技術士交流実行委員会 委員長 石井 一夫(生物工学) 「青年技術士の活動～現状と課題、展望」

分科会発表演題

分科会	1	2	3	4
第1分科会	九州のアジア度	APECエンジニアの活動体験 (技術者の交流)	地勢文化都市形成 (福岡・北九州車両の比較)	東アジアの観光の現状と展望
	九州経済産業局国際企画課長 壇 孝司	サムソンコーポ 今西 肇 (建設・総監・工博)	福岡市港湾局 馬場崎 正博(建設)	JR九州 師村 博(建設)
第2分科会	循環型社会の形成と活用	食の安心・安全に向けて	福岡県西方沖地震について	台風による有明海の高潮被害と対策
	福岡大学 助教授 柳瀬 龍二(衛生・工博)	九州農政局消費安全部長 畠 孝司	九州大学大学院教授 善 巧企(工博)	(株)シビコン 加来 雄一(建設・総管)
第3分科会	NPO自治体との取り組み(環境管理の視点から)	石の文化とまちづくり (技術士のつどい)	流域環境保全におけるパートナーシップの重要性とNPOの役割	パネルディスカッション「地域振興と住民との合意形成を目指して」
	環境管理システム研究会 杉元 勝	熊本技術士会 堤 康博(建設)	西日本技術開発(株) 井芹 寧	鹿児島大学教授 守田 和生他
第4分科会	生涯教育推進実行委員会主導で研究論文及び事例報告／論文を募集中 「第2回技術士CPD・技術者倫理／技術者関連倫理の研究・事例」 論文提出者登録締切：2005. 4. 28 論文締切：2005. 7. 29 発表者決定：8月下旬			
第5分科会	パネルディスカッション「青年技術士の活動及びその連携と今後の可能性」 コーディネーター 九州支部 田上 健一 北海道支部、東北支部、本部、中部支部、北陸支部、近畿支部、中四国支部、九州支部(久富浩明)			

業務開発の新たな挑戦

前業務開発委員長 松尾 憲一（機械、総合技術監理・福岡）

中小企業を支援する新しい施策として中小企業新事業活動促進法が4月7日に国会を通過し、13日に施行された。その後、日経新聞に九州中小企業のサポーター〈新連携支援アドバイザー〉募集があり、応募締切りは5月6日（金）までとなっており、技術士の方で既に登録済みの方もおられると思う。

九州支部の業務開発委員会では、「新しい中小企業支援への取組み新連携対応メンバー募集」という触込みで、九州支部会員各位に呼びかけた。5月13日締切日現在、28名の方に応募頂いた。

〈上村新連携担当参事官の登場〉

4月30日、合同役員会後の午後4時20分から40分間、九州経済産業局 産業部 中小企業 新連携担当の上村^{よしひさ}欣久参事官殿が会場にお出でになり、新連携に関する法律や仕組み、これからの展開など、分かり易く解説して頂いた。お人柄はきさくな方で会場はしばしば笑いに包まれた。

説明内容を概説してみよう。

〈どうして今新連携なのか〉

この「中小企業新事業活動促進法」という法律が今どうして必要なのか。

我が国経済社会を巡る劇的構造変化が起こっているのに対応して、市場環境に応じた柔軟な企業連携が必要になってくる。

「新連携」とは、複数の事業者が、各企業が持つ様々な強みを持ち寄って、それらが融合することで初めて可能となる事業活動を行うことで、単独ではなし得なかった高付加価値の商品・サービスの提供を行う企業グループのことと定義されている。

この構想を実現するために、新しい仕組みを構築している。新連携企業群を支援するための上位組織として、九州経済産業局長の諮問機関である「九州地域新事業戦略会議」が設置され、年2～3回の会議が開かれる。この下部組織として、「戦略会議事務

局」が設けられる。今回やろうとしていることは、プロジェクトの出口部分を強力に支援していこうというもので、知見やノウハウが必要であり、民間の実務経験者5人で構成される「新連携事業評価委員会」が設置される。ここでは、相談案件がビジネスとして成立つものであるかどうかを判断する。

個別の相談案件は、プロジェクト個別支援チームで対処する。こういうものを作らないと、相談案件の具体的な処理ができない。ここに相談案件を捌く弁護士、銀行家、プロジェクトを押し出した技術士の方にご参加願いたい。

〈技術士に何を望むか〉

技術士さんは、各企業で技術の核となる強みに係ってこられた方々が多いと考えている。

ここに「新連携支援候補プロジェクト・1次登録シート」というフォーマットがある。このシートを作成するのに、技術士の皆さん方の英知、ノウハウや実務上の経験を入れて頂きたい。

この申請書を戦略会議事務局の中のプロジェクトマネージャーやサブマネージャーが見て、これならいけそうだなと思ったら、この事案に詳しい専門家に参加頂き、3～5名のプロジェクト個別支援チームが結成されることになる。

このチームの専門家に委嘱されることによって、最高1日3万円の謝金が支払われることになる。

新聞上では5月6日締切りとなっているが、これから先どういう案件が出てくるか分からないので、今からでもできるだけ多くの方に登録をお願いしたい。上村参事官の説明概要はこのようなものであった。

この新連携に対応した技術士の方々に対しては、支部の業務開発委員会からいろいろとお願いすることがあるが、対処頂きたい。業務開発委員会として新たな局面に立たされるが、社会の活性化のために挑戦したいと考えている。

C P D登録及び登録証明書の発行について

前九州支部C P D委員長 光岡 毅（建設・福岡）

平成12年4月26日の技術士法一部改正は、技術士が職業倫理を備えることを求めると同時に、技術士資質の一層の向上を図るため、資格取得後の研鑽が責務とされた。

当日本技術士会としては、技術士資質の向上の制度として平成13年4月1日より技術士のためのC P D（Continuing Professional Development）をスタートさせた。

土木学会等の学協会では、学協会としてC P D教育を行うことに加え、C P D登録証明書の発行を行う仕組みをつくり、それが動き出し、技術者それぞれのC P Dの結果を評価することができることになった。

これをふまえ、九州地方整備局では、公共工事を実施するにあたりより優秀な技術者による施工を行うことを目指し、継続教育（C P D）の単位取得を

工事を実施する技術者の評価として活用することとした。まずは、評価の試行を平成16年2月1日以降に実施する工事の一部について行った。

しかし、日本技術士会がまだその制度を発足していなかったため、建設コンサルタントの業務委託は見送られていた。

日本技術士会では急いでこの制度を構築し、平成17年度から登録証明書を発行することになった。

●C P D登録証明書の発行手続き

C P D登録証明書の発行については、自己申告により登録されたC P Dのデータを基本とし、証明書の内容については、対象期間のC P D時間の合計、並びに、一般共通課題、技術課題の内訳を記載する。なお、年間のC P D時間が50C P D時間に満たない場合でも、C P D登録証明書を発行する。

●証明書発行手数料等の設定

項 目	会 員		非 会 員	
	We b登録	文書登録	We b登録	文書登録
登 録 手 数 料	¥ 0	¥1,000／年度	¥5,000／年度	¥10,000／年度
証 明 書 発 行 手 数 料	¥1,000／回	¥2,000／回	¥5,000／回	¥10,000／回
C P D記録シート添付料	¥500／回	¥500／回	¥2,000／回	¥2,000／回

注）ここでいう会員は、(a)日本技術士会の会員のみで、九州技術士センター会員は非会員扱いとなります。

●C P D記録の登録方法

C P D登録は自己申告が基本であり、その内容については申告者の説明責任がある。C P D記録の登録方法は、「We bでの登録」と「文書での登録」の2通りあり、随時登録が可能ですが、管理運用が容易な「We bでの登録」を奨めます。

●あとがき

昨今技術進歩のスピードはますます速まっており半年も遠ざかっていると高度な専門家である技術者も置いていかれてしまう。

せっかく技術士を持ちながらペーパーライバーとならないように日本技術士会九州支部ではC P Dを行って技術士の皆さんに技術力のレベルを維持していただきたいと思います。そのため広くC P Dを展開してゆく所存でありますのでご期待賜りますよう。また、C P D登録及び登録証明書の発行も有料になり会員のメリットは大きくなります、非会員の方は、日本技術士会に入会してC P Dに励むことをお勧めします。

平成17年度 第1／4期 九州支部・技術士C P D報告

九州支部C P D委員 久保川 孝俊（建設、総合技術監理・福岡）

4月23日(土)博多パークホテルにて九州支部主催による標記C P Dが実施されました。九州支部C P D

は、A部門、土曜集中（6時間）、4回／年という参加しやすさと効率性を考慮した方法により実施中

で、今回は課題区分【A－3】の、次の5題で行いました。

- ①「最近の地震被害から見た地震に強い国づくり」
大塚久哲氏（九州大学大学院教授 工博）
- ②「福岡西方沖地震の被害概要」
須貝秀樹氏（福岡県前原土木事務所道路課長）
- ③「中越地震で100人の技術士が見た課題」
山口 豊氏（㈱日本技術士会防災特別委員会副委員長）
- ④「スマトラ沖地震津波被害の現況」
大角恒雄氏（日本工営㈱中央研究所プロジェクトリーダー 工博）
- ⑤「減災と技術からあなたは何を学ぶか」
山口 豊氏（㈱日本技術士会防災特別委員会副委員長）

今回の支部主催C P Dも盛況で、出席者数は140名超と多数の参加となりました。

議題①では、阪神大震災の被害状況分析を基に、地震動の大幅引き上げによる各種耐震基準類の改訂経緯や、台湾集集地震における地表面断層変位の問題と大規模斜面崩壊のすさまじさや耐震対策の遅れによる橋梁・ビル等への激しい被害状況を、また鹿児島県北西部地震における被害状況と分析、福岡西方沖地震では、地層構成による地震動の増幅問題を数値解析と現地被害との比較により明らかに出来たことを、学術的な立場から写真とわかりやすい説明で、示唆に富んだ講演となりました。

議題②では、地震発生直後から事務所に詰められ、福岡の被害情報収集に当り、翌日には余震の続発する玄界島に上陸し、集落・山頂を含めた玄界島全体の調査体制づくりから現地調査、更には復旧時の二

次災害防止など、行政の立場から対処され、見てこられた被害状況を、写真や模式図でわかり易く説明して頂きました。

議題③では、中越地震被災の特徴を神戸との被災の比較で、災害の特徴を明確にし、神戸を上回る加速度、典型的な地盤災害、山村の孤立などの様子を、写真や図表で説明され、また減災への課題をとして防災工学の技術展開と課題を阪神大震災から中越地震までの進展と実態を踏まえ、わかり易く説明されました。最後に、震度7は全国どこにでも起こりうると、特に福岡県では大地震は無いと考えていた参加者に対する警鐘となりました。

議題④では、スマトラ沖大地震発生から約3週間後に、スマトラ島西岸アチェ州に赴き、被害状況を調査されたが、その行程の中での道路・橋梁・空港・港湾施設・建造物などの被害状況から、地震被害と津波被害の違いを写真によりわかり易く解説され、また12月26日の甚大な津波被害と翌年3月28日には何故津波が起きなかったかを、断層のずれの量などで比較するなど、特に津波被害の脅威をパワーポイントにより紹介して頂きました。

議題⑤では、教本「減災と技術」ねらいとその内容について、気象と災害、津波災害、地震と耐震、土砂災害と防災・減災、震災と環境影響・廃棄物問題等々の説明の後、防災情報に関する問題を、阪神・淡路大震災のGIS活用事例と中越地震での利用状況を基に、災害対応へのGIS活用を図表により説明して頂き、最後に、地域防災力の向上のための企業の役割や、防災力向上の戦略までを、わかり易く講演して頂きました。

I T 推進委員会報告

I T 推進委員委員長 大里 信義（化学、総監・福岡）

日時 平成17年5月24日15時～17時から I T 推進委員会を開催いたしました。

協議の内容は、下記の通りです。

1) 会員のメールアドレス保守管理などネットワークの件

- ・会員への連絡、広報はメール、ファックス、文書の優先順位とし、重複の発信はしない。
- ・アドレス変更などの更新は異動期もあり、時期は

限定しないが適時行い、事務局と地区代表幹事が情報を共有する。

- ・個人情報保護法施行に伴い、名簿の管理についてネットワークキーマンに注意を喚起する。
- ・代表幹事1人がキーマンの現システムのウイークポイントを補完するために補佐役を設け、ヒエラルキーネットワークを確実にする。
- ・ネットワークの説明とI T 活用（メール優先）の

依頼を支部のホームページにアップロードする。
後述のホームページ更新手続により対処する。

2) 平成17年度活動方針

- ・技術士会業務開発委員会の活動をIT分野から支援する。

3) 支部メールアドレス変更の件

- ・会員の混乱を招く恐れがあるので変更はしない。
- ・情報福岡に迷惑メール排除について問い合わせをする。
- ・ホームページのアドレス表記は文字化し、自動発信による迷惑メールの低減を図る。

4) 災害技術支援へのIT活用

- ・災害緊急時に清水委員長を補佐して、主として連絡のサポートを行う人材として、畠中委員を推薦、双方の了解を得た。

5) 支部ホームページの管理

- ・以下の管理規定を作成。

- ・更新は地区代表幹事、各部長、各委員長から広報委員長に申請し、認可を受けた後、html形式で広報委員長へメール添付ファイルで提出する。
- ・写真や図表が含まれサブフォルダーを含むhtmlファイル構成の場合には圧縮ファイルで送付する。
- ・更新ページはWeb担当者の効率とページの変換誤差をなくすため、必ず、発信者側のブラウザで表示、チェック後提出する。
- ・Web管理者は広報委員長の指示によりWebページを更新する。
- ・Webページは原則として1日と15日に更新する。
- ・htmlファイルの作成及び送信の手順は久富委員が資料を準備、発信予定者に伝達する。

6) 新連携他IT活用での業務斡旋システム

- ・LLP（有限責任事業組合）という制度とこれの説明会の情報あり。

部会報告

第三部会技術研修会報告

第三部会活動報告

第三部会長 和田 洋二（金属・北九州）

3月20日午前の福岡県西方沖地震は、私など北九州に長年住まいする人間にとってまさに青天の霹靂で、「北九州地方、いや、福岡県では大きな地震が起きる心配は極めて少ない（ない?）」という風聞を信じてきたことに忸怩たる思いがする。

幸い私自身は被災しなかったが、玄界島をはじめ福岡市周辺地域では甚大な被害をこうむられた方が多数に上り、心からお見舞いを申し上げます。

「天災は忘れたころにやってくる」とは、かの寺田寅彦の警句だそうですが、今回の震度4弱?（若松区で）の地震体験は私にとっさにこの言葉を思い起こさせ、今更ながら「まさか!北九州で——、他人事ではない」との印象を深くした。

その寺田寅彦は、自ら大正12年（1923）の関東大震災に遭遇した経験があり、東大「地震研究所」所属の肩書きを持つ地球物理学、実験物理学者でもあった。地震予知を巡っては、“期待派”と“慎重派”があるそうで、東大「地震研究所」は、東北大

地震噴火予知研究観測センターとともに“期待派”の人脈を受け継いでいるとのこと。（日経新聞05. 1. 31日刊）寺田はその著書で、随所に「地震防災の重要性」を説いている。期待派、慎重派の人脈はともかくとして、地震予知がもし実現すれば、との想いは自然な感情として湧いてくる。

さて、第三部会では、H16年度第四回技術講演会をH17年2月26日、博多第一ホテルにおいて開催し、12名の出席者のもとで会員お二方の講演をお聞きした。

(1) 「技術経営と課題」：金属部門

宮田守次 氏

【要旨】技術経営（MOT）の目的は、技術投資の費用対効果を最大化する企てである。この学術分野が起こった背景とその発展・普及、新製品開発・商品化の問題点、技術戦略マネジメント、ならびに、技術経営における技術士の役割と今後の課題について。

【内容その他】講演者は、日本規格協会／MOTコースの立ち上げ、産学官連携広域コンソーシアム研究開発事業推進の実績を持ち、最近特に注目されつつある技術経営について、豊富な経験を踏まえて熱のこもった講演だった。技術経営の歴史としては、1980年代半ばスタンホード大学／ミラー教授のテク

ノロジーマネジメント講座に発祥があるとされ、日本では2003年の早稲田大学大学院を皮切りに、九州大学など多くの大学で技術経営コースが設けられつつある。

(2) 「板ガラス製造法の変遷－技術面からの考察」

総合技術監理・化学部門 大里 信義氏

【要旨】板ガラス製造法の歴史を見ると、透明でゆがみのない板ガラスを安く作るために、どのような発想からどのような努力がなされ、技術が完成したか、またそれが技術的にどのような意味を持つかが分かって興味深い。特に板ガラス開発は大きなリスクを伴うが、このことに開発者がどのように立ち向かって困難を克服していったかを知ることは、今後の技術開発の参考となる。

【内容その他】北九州市の依頼を受けて産業技術

史をとりまとめる機会のあった講演者に、先人の苦労とあくなき技術開発への挑戦の歴史について語っていただいた。ガラスの歴史は非常に古く、紀元前3千年に遡る。ガラスの成型方法は、最初はキャストでただその透明性を装飾品として重宝がる段階から出発し、引き続き、粘土に半溶融のガラスロッドを巻きつけて成型する段階、口で吹いて火作り表面を利用した段階があった。その後、それを機械化したラバース法、シート状のガラスを引き上げ法によって連続的に作り出すフルコール法、コルバーン法、ピッツバーグ法などが考案された。さらにまったく違った発想で画期的な発明となったフロート法、薄板が作りやすいフージョン法について紹介があった。

平成16年度 四部会他合同研修見学会報告

第六部会長 松浦 茂雄（環境・福岡）

1. はじめに

21世紀を迎えて地球環境問題の顕在化に伴い、わが国は勿論、世界中が資源循環型経済社会の実現に邁進すべき責務を負っている。北九州市では環境・リサイクル産業の振興を柱にゼロエミッション構想を推進する「北九州エコタウンプラン」の実現が着々と展開されている。

この度、「PCB廃棄物処理施設」がタウン内に設置・稼動を開始した機会を捕らえ、現下の同地区での実態を見学することとし、関心のある四部会他の会員43名の参加を得て2月18日(金)に実施された。

本命はPCB処理施設としたが、隣接する「北九州エコエナジー(株)」、「エコノベイト響」及び「(株)エコウッド」の見学も併せて実施された。あいにくの悪天候で、かなり難行であったが参加者の熱心な質疑・応答によって有意義な合同研修であったと評価できよう。

2. PCB廃棄物処理施設

20世紀の産業界で有用な物質として生産・使用されていたPCB（ポリ塩化ビフェニール）は北九州市を中心に発生したカネミ油症事件をきっかけとして生体・環境への影響があることが明らかとなり昭和

47年までに生産が中止され、その後製造・輸入、開放系用途での使用が禁止された。閉鎖系用途としての電気機器が現在も使用継続か保管が義務付けられている。

現在労働安全衛生法の特定化学物質第1類、化学物質の審査及び製造等の規制に関する法律の第1種特定化学物質に指定され、今日まで多くのPCB使用機器類は30余年の保管が行われ、その間の腐食、紛失が懸念されてきた。

環境省はこのPCB廃棄物の処理推進を21世紀の最重要課題と位置付け、日本環境安全事業株式会社（JESCO）が全国5箇所にPCB廃棄物の拠点的広域処理施設を建設し、平成28年までの10年間に総量約5.4万トン进行处理完了する計画である。北九州がその先発として、操業の安全を第一に施設の運転を開始された。処理技術として「脱塩素化分解方式によるPCBの化学分解方式」を採用している。建物床面積14,864㎡、3階建ての広大な施設は化学処理施設と見えないような明るい施設構成で一般見学に対応する視聴覚設備が完備されており、処理内容などの理解を容易にしている。

操業の基本が安全性確保にあり、安全・確実なPCB処理方法の確立、リスクマネジメントに立脚した多重の安全対策と情報公開の原則を達成されて20世紀の遺物とされたPCBの早期の処理無害化を達成される事をお願いして見学を終わった。

3. 北九州エコエナジー株式会社

北九州エコタウンはゼロエミッションを目指して

多角的なマテリアル複合リサイクル施設の運用を着々と実現しつつある。その中にあって、最終資源化機能とエネルギーセンター機能を実現するためにこの会社が設置された。地区内の廃自動車処理・リサイクル施設からのシュレッダーダストの最終段サーマルリサイクル等によって自家発電を行い、発生した電力をエコタウン内の電力需要に供給する方式を採用し文字通りのゼロエミッションの実現を目指している。主体となるシャフト型ガス化炉で可燃物を熱分解し発電用燃料ガスを製造している。このガスを燃焼させて14,000kwの電力を回収している。また炉底部で不燃分を溶融・スラグとして回収し、有用金属の回収・再生を行っており、ゼロエミッションに貢献するシステムを構成している。

4. 医療廃棄物処理施設：エコノベイト響

医療廃棄物とりわけ感染性廃棄物の処理技術の確立は特別管理産業廃棄物の中でも緊急課題として法律の改正の眼目となっている。病院から排出される感染の恐れのある注射針や血液の付着した処置廃物などを専用のコンテナに保持して運搬車で当事業所に搬入される。

ここにおいて、医療事業、セメント事業、教育事業など一貫性を確立した麻生鉱山株式会社環境事業室が運営しているこの施設では、搬入された医療廃棄物をコンテナ每一挙に破碎した後高周波滅菌（10MHz）を行ってから素材分別（プラスチック類、金属、繊維など）を行い、プラスチックは再生容器として、金属・ガラスや繊維などは固形燃料や原料として有効利用に役立てている。これによって今までの焼却処理から再資源化を目指している。

5. 株式会社 エコウッド

廃木材と廃プラスチックを主原料として開発されたこの事業は「リ・バーステクノロジー」として見事に木質素材を再生産されたもので二次加工品としてエクステリア、インテリアに今後の活路を見出している。

建築現場や工場から搬出された木材、プラスチックを100%活用してミクロン単位に粉碎・配合の後、金型ノズルから射出され、いろいろの成形加工が施されている。景観エクステリア（栈橋、歩道用ブロック、あずまや、ボートハウスなど）、建築・土木（スポーツスタジアム、屋外ステージ、花壇など）、農業・水産業（養殖水槽、納屋、牛舎など）、住宅部品（デッキ、フェンス、濡れ縁など）その利

用範囲は際限なく広がる可能性を秘めているようだ。

その根底をなすものはFree（Water Free, Maintenance Free, safety free, design Free）であること、すなわち今までの木材の概念を払拭して自由な用途が期待されることにある。

それぞれの事業所において、資源の有効利用を目指して真摯な事業展開を実施されている事に感銘を受けた。

まさに、廃棄物を貴重な資源として、生産段階からリサイクルと廃棄物の減量化を基本とした生産活動を展開する3R活動（Reduce, Reuse, Recycle）を実践している北九州エコタウン事業の今後の発展に期待するところ大である。

地球市民としても環境保全への地道な努力が21世紀に生きる者の努めと確信する。

見学会終了後、希望者は車で懇親会場に直行した。24名の参加者は合同部会である事を反映して自己紹介に始まり、和気あいあいの会場雰囲気を醸し出して有意義な会合で終始した。

この見学会を企画された九州支部副支部長 是永逸生先生（北九州市PCB処理監視委員会 委員）の市当局への折衝、またこの見学会の実施を許可された北九州市環境局 環境産業政策室主幹 入江隆司氏、宮脇幹仁氏、案内役の岡本真一氏のご苦勞に深甚の謝意を表する。

第一部会幹事 田中 正人、碇 俊明 両先生の計画推進、第五部会 長野義次先生ほか多くの先生方の御協力に感謝致します。

※各部会毎参加者数

第一部会；13名	第二部会；4名
第三部会；7名	第四部会；2名
第五部会；10名	第六部会；7名

今回の見学会が環境問題を考えるステップの一段の飛躍に繋がる事を期待します。



北九州PCB処理施設見学会

地域だより

佐 賀

最近の主な活動

地区広報委員 島内 明（建設）

佐賀地区における最近の主な活動をお知らせします。

1) 第11回西日本技術研究・業績発表会年次大会（佐賀大会）に向けて

テーマ；自然災害・産業災害の危機管理と道のやりわり

開催期日；平成17年6月3日(金)～4日(土)

会 場；大会セレモニーおよび分科会：佐賀県生涯学習センター（愛称アバンセ） 交流会：はがくれ荘 見学会：佐賀城本丸歴史館

当大会は、(社)日本技術士会九州支部の甲斐事業委員長の下、光岡CPD委員長の協力を得て、佐賀地区、長崎地区会員がNPO法人技術交流フォーラム及び長崎県技術士会との協働で企画・計画・準備・運営を行っています。活動の中心は技術交流フォーラムの事業委員会メンバー（技術士）で、いずれも企業内技術士が企業の全面的協力を得て精力的に行っており、時期を得た企画・内容に佐賀県、佐賀市、長崎県土木部、その他関係官庁、関係諸団

体の評価を受けた後援を頂いております。

当大会は、九州支部の技術士CPDとして認定されておりますので、大会成功のため、多くの九州の会員が参加されることを期待しております。なお、広く一般にも公開しております。

2) 巨勢川調整池利活用懇談会

当活動は技術士の技術による地域社会貢献の一環として、佐賀河川総合開発工事事務所と協働で、地元住民とのワークショップ等を平成16年12月から実施（NPO法人技術交流フォーラムとして受託）し、平成17年度も継続しております。

3) 品質確保検討会

これからの社会資本の形成に関するアセットマネジメントや研修システム等の事柄について、大学、行政、関係団体、関連企業と協働で定期的に検討会を実施しております。

主として、下記項目について分科会を設け、その中心として多くの技術士会地区会員が参加して活動しております。

①技術研修システムの構築について ②材料試験機関について ③社会資本の維持・管理・更新（アセットマネジメント）について ④設計・工事等の照査・監査及び評価システムの構築について

大 分

大分地区情報

地区代表幹事 吉良 文至（建設）

大分地区で年中行事の一つで新年の一月の期間内に新年互例会を開催します、この機会にCPDを実施しています、今年は、国土交通省大分川ダム工事事務所副所長 後藤信孝様のご協力を得て開催しました。

最近ややもすればダム工事は無用のものと切り捨てにされがちであります、90分にわたる講演の後質問が相次ぎ途中で質問をカットするほどの盛会でした、その大綱は次の4項目です。

1. 治水事業の現状
2. ダム事業の現状
3. 河川整備とダム事業
4. 大分川ダムの現状

なかでも、コスト削減について並々ならぬご苦労されている事がうかがえました。

さらに、掘り下げて考察してみますと、人間の生活で生きる要素に空気と水は絶対的のものである事を思うと困難な治水総合事業にご苦労されていることに声援を送る気持ちは筆者だけでないと思います。

つぎに、第二次試験の受験説明会を3月12日に開催しました、受験資格が限定された今日参加者は限られると考えていましたが思いのほか多数の参加者でした、席上、経験談発表を田口修様（日本地研大分支部次長、応用理学、建設、総合技術）にお願いして大変有意義な講和がありました。今後はさらに受験者が増加することが想定されます。大分地区をあげて受験者の支援をします。

第一次試験の説明会を5月21日開催しました。これに先立ち、4月14日村谷俊雄様（村谷技術士事務所、化学）のご協力を得て大分大学工学部に技術士のシステムとビジョンのPRをしました。

鹿児島

H 17 年度のスタート

地区広報委員 竹元 幹生（応理）

新年度の総会（5月21日）によって下記のとおり事業計画が承認され、地区代表幹事など役員（幹事・理事）も改選されました。

1 役員

地区代表幹事 竹元 幹生（応理）

地区幹事後藤 祐一郎（農業）

センター理事 西山 哲郎（建設）

センター理事 門松 経久（農業）

2 事業概要

- (1) 本部・支部の事業・活動への協力
- (2) 全国大会（九州）への協力
- (3) 会員名簿（1,200部）の作成と広報
- (4) 青年部会活動の継続推進
- (5) 災害技術支援部会活動の継続推進

(6) CPD研鑽会の開催

(7) 技術情報等の広報・提供（随時）

3 主な事業

3.1 青年部会活動（委員長狩集克己：建設）

(a) 技術講演会2回、現地研修会1回の開催

(b) ワーキンググループ（WG）立上げの検討

・（仮）かごしま技術士の会（NPO法人）

・（仮）高レベル放射能廃棄物勉強の会

・（仮）新聞報道を評価する委員会

3.2 災害技術支援部会活動（委員長中山義雄：応理）

(a) 組織を整備し、活動を継続。

(b) 成果発表と報告書刊行の検討

3.3 CPD対応研鑽会の毎月開催

会員を対象とする。毎月第2土曜日

特に技術士補に参加増の呼びかけ

3.4 技術情報の提供

CPD研鑽会資料（H14～H15）の頒布

3.5 会員相互の親睦会

3.6 その他一次二次試験願書配布説明会開催

宮崎

プラットフォーム型の環境政策づくり

藤原 稔（環境、総合技術監理）

1. はじめに

都城市は、豊富で美味しい地下水とともに豊かな自然環境、住み良い住環境が随所に残されている。この優れた環境の恵みの持続性を高めるために市民参画による行政施策立案の必要性、多様な主体の協働による環境改善の具体的な行動、それを支える仕組みについて本市の事例を紹介する。

2. SECIモデルを用いた多様な関係主体のナレッジの集積

本市で暮らす市民、事業者、行政が協働してPIにより環境基本計画（H14）を策定した。多くの関係者の知財は、行政だけでは得られない貴重な資源であり、それを活かし、行動に結びつける必要がある。環境の将来像『ずっと暮らしたいみやこんじょ都城』と言う地域の個性を見出すビジョンを掲げ、WBSを支えるシナリオプログラムの階層構造を体系化した。

また、TKJ法を用いたナレッジマネジメントにより関係者の個人知・組織知の相互転換や共通認識

の内面化を進め、人的資源の継続的育成に努めた。

3. 計画を実現するための取組

本計画では、市民協働による戦略プロジェクトを描き、市民を巻き込む活動を展開している。

(1) かっぱも驚く自然体感プロジェクト

自然の大切さを感じ、環境を良くする行動を促すことを目的に、優れた河川環境を活かして子どもの遊びの拠点づくりを行っている。環境配慮の行動を促す契機として体験型学習の必要性を示している。

(2) 霧島Echoプロジェクト

環境関連NPOや、市民・事業者・行政ネットワーク化と連携により環境への取組みを行いやすい仕組みづくりを進めている。環境学習会やイベント、HP開設（URL:yui.kids-net.jp/）など関係者の主体形成を進め、情報的手法による各戦略プロジェクトを市民に展開する活動でもある。

4. おわりに

市民が彩るまちづくりのためにステークホルダーのアイデアから親しみのある行動目標を創出し、それに向かって『学びながら実践する』体制づくりに配意した。今後、本計画をマネジメントする管理主体＝環境ガバナンスの形成のために、市民が意見を交え、実現する場であるプラットフォーム型の行政運営を進める必要がある。

I

プロとアマ

平原 宏志（建設、総合技術監理・長崎）

最近スポーツ界では20歳前後の若い選手の活躍が目立つ。テレビ、新聞等で大いに報じられている。一般的によく言われている言葉であるが、“スポーツ界は、プロとアマの実力の相違が大きい世界である”と。しかし、最近のプロスポーツ界を見ていると果たしてそうであろうかと疑問を感じる。最近の例をあげると、19歳でゴルフトーナメントを制した女性選手、大学卒業で勝ち数を期待されているプロ野球の投手等枚挙に遑がない。

プロとは辞書をひもけば“professional”職業的、専門的、またアマは“amateur”素人。職業とせず趣味や余技として行っている人と解説されている（パーソナルカタカナ語辞典）。プロはアマと違い“業”として継続的に活動する。アマは業ではないから自由に楽しみながら行動することができる。従って、プロはアマと根本的に要求が異なり、それに伴い社会的責任が重いものである。これは、プロとアマは役割、資質が異なることを示している。しかしながら、最近のプロスポーツ界はこのプロとアマの境界が不明確になってきているような気がする。これは、アマであってもプロ並みの練習量をこなし、限りなくプロに近づき、若年でありながらアマの頂点はおろかプロに進んでも、その頂点に立っている。間違っても、プロのレベルが低下したとは思えない。

これが、我々技術者の世界においてはどうかだろうか。テレビ番組等の技術者インタビューで、10年20年でさも技術的に完成しているようなレポートを伝えていることに出くわすが、少なくとも今日の進歩する技術を修得し、現在の技術を踏襲し新たな技術を創造するためには、10年、20年でも達成できないものもあるのではないだろうか。プロの中で、我々の位置はこの部分ではないかと考えている。諸先輩を見ていて実感するところである。進歩する技

術の中にあって、技術を担い進化させる技術士の役割をもう一度見直す必要があるように思う。

技術のプロとアマの違いを考えてみると、高校、大学を卒業し、また在学中に技術の資格を取得する優秀な技術者の方々は居ると思うが、果たしてその資格を活用し、1～2年で大プロジェクトを完成させるようなプロが何人いるであろうか。現在活躍しているプロスポーツ選手と比較すると、ほとんど居ないのではないだろうか。ただ、世間の関心が低く報道しないのかもしれないが、いても少数であろうと思う。

我々技術者のうち、土木業界では高校を卒業して9年、大学を卒業して3年で1級土木施工管理技士を取得することにより監理技術者の資格を得る。また、技術士法では技術士補を取得して4年で技術士を取得することができる。この時点で、プロの技術者と呼べるのではないだろうか。この現状を見ると、技術者は過去の事象を経験・修得することにより、更に上の技術に挑戦する。基礎教育が如何に重要な役割を果たしているかが重要な要素となってくる。スポーツ界は、若年者でも身体的能力を高めそのスポーツに適応する環境を整えれば、若くてもすばらしいプロになれる。それに対し、技術者はその基礎を修得した量が多ければ多いほど高度な技術者となる。一分野を修得しプロスポーツ界で成功するスポーツに比べ、我々技術者の世界は技術分野は巨大化、専門化し更に複雑化してきており、総合的な判断が必要となってきたこの状況を考えると、20歳前後の若年プロ技術者の完成は困難であると思うし、経験に裏打ちされたすばらしい指導者の下で、若手技術者はプロの技術者に育って行くものだと考える。このことは、技術者の若年教育が重要であるということに他ならない。

技術士は、この若年教育を経て立派な技術士として育つものと考え。これから先、アマがプロを超える分野が出現することがあるとしても、技術の世界は安易にそのようになってはいけないと思う。我々技術士は“温故知新”の言葉のように、常に現在までの過程を振り返り、新たな創造を行っていかなければならない。安易に取得した技術は貧しい将来を招きかねないように思う。

Ⅱ

社会を変える技術者へ

宮川 ^{おうき} 央輝（建設・宮崎）

晴れて技術士となって数ヶ月が過ぎました。その間、いろいろお世話になった方々からお祝いのお声を頂いたり、技術士の集まりに参加させてもらったりとその環境の変化にとまどいつつ、技術士として新たな一步を踏み出すことに期待と緊張を感じているところです。今年は技術士とともに県内で初めて1級ビオトープ管理士にも合格することができたことから、この分野の技術の研鑽や啓蒙も図りたいと思っています。

私はこの10年間、ランドスケープアーキテクトとして公園緑地や景観について業務にあたってきました。私のスタンスは〈ランドスケープアーキテクト〉であり、その中で建設部門（都市及び地方計画）の技術士や1級ビオトープ、そして今度挑戦しています環境部門の技術士があると思っています。

ある先輩から「造園家は10年たてばだれでも一人前になれる」と言われたことがあります。私の場合、ちょうど10年の節目を迎えましたが、ちゃんと一人前になれたかどうかは別として、やっと周りを見渡せるようになったかな、と思えるようになりました。しかし、その分先も見えることができるようになったのか、課題が山積みが続いています。

それでもこの10年間ずっとある〈想い〉をもって業務にあたってきました。言葉にするととてもおこがましいのですが、「社会に貢献したい。社会をよりよく変えたい」という想いです。

私にとって一つの業務をさせて頂くということは、それは私にとって社会と関わり、社会をよりよく変革するための手段である、と考えてきました。そのため、業務を越えて提案を行ったり、提案内容にダダをこねたりと、会社や発注者ともに大きなご迷惑をかけてきたと思います。特に技術も知見もコーディネートも未熟なこの10年においては、さらに周囲の方々にもご迷惑をかけ続けてきました。しかし、こうして技術士やビオトープの資格を取得して紙面に掲載された時には、今まで業務に関わってきた人たちから多くのお祝いやお礼のお電話を頂きました。これまでいろいろやり方はまずいところは多々あったものの、方向性としては案外間違っていなかったかな、と思えた瞬間でした。

最近では、私たちが関わる街づくりは、やはり人づくり・ネットワークづくり・心づくりに積極的に関与しなければ、最後までこの目標が達成できないと感じています。そこで今では、技術者の枠を越えて、ホームページや執筆活動を通じて啓蒙活動を行ったり、宮崎県内外で活躍されている方をお呼びして街づくり活動に結びつける「みやざき未来フォーラム」によるコミュニティ創出活動や、「NPO法人みやざき技術士の会」が主催する技術士養成講座のアドバイザーとしてできるだけ多くの機会を得させて頂きながら多くの人たちとの交流・人材育成に関わらせて頂いております。

「技術士にふさわしい」姿というのはこれからも高い目標として追いつけて行きたいと思いますが、その中で自分らしさや自分にしか今できないことを模索しながら今後も社会に関わっていきたいと思います。

第32回技術士全国大会 ウェルカムパーティーのご案内

第32回技術士全国大会の大会前日に行われるウェルカムパーティー（博多湾ディナークルーズ）の雰囲気をお届けします。

船内での食事、博多湾からの夜景共に魅力的であります。当日は、多くの方に参加いただきますようご案内いたします。



船内での食事



夜景（ヤフードーム）

修習技術者の声

“優れた技術者”を目指して

奥永 剛士（電気電子・福岡）

正直に申し上げまして、技術士という資格の取得は私にとって、何が何でも果たすべきキャリア上の目標ではありませんでした。今年で社会人5年目になりますが、特にコンサルタント業務や公共事業への入札といった業務に従事しているわけでもなく、仕事に関する限り、技術士という資格の必要性は絶対的なものではないからです。技術士を目指すことは自己研鑽の一環であり、あくまで頑張る動機付けとしての技術士合格である、そういった気持ちで技術士の資格取得を目指してきました。

そんな私ですが、自分が工学に関わる一員であるということに関しては、いささかのプライドを持っています。そして私は“優れた技術者”でありたい、もしくはそうなりたい、そのように考え日々努力しております。

常々工学こそが、理工系学問と実社会との架け橋であると考えています。社会的ニーズがそこにあり、それに対し技術的なアプローチ（＝工学）を架け、それらを通じて人々の暮らしに役立てる、工学はそ

のようにして実社会に貢献しています。私は大学入学以降の10年余りを、工学に関わる一員として過ごしてきました。いつかは私も、社会のニーズに私の技術で応えたい、そう考えています。

一次試験合格後、私はすぐに日本技術士会に入会しました。その主たる目的は、技術士会が主催する会合に出席することにより、生の技術士の声を聞くことでした。企業内技術士としてご活躍の方、また独立開業されている方、はたまた大学等学術方面で活躍の方等、様々な方のお話を聞くことが出来ました。そんな諸先輩方の話を聞きながら、なぜ技術士が社会の中で認められ重要視されているのか、私なりに考えをまとめてみました。“技術士はみな優れた技術者である”というのが私なりに得た答えでした。

“優れた技術者”とは、社会的ニーズに的確に応える技術者であると私は考えます。“優れた技術者”の全てが技術士というわけではありませんが、技術士の全てが“優れた技術者”であると私は感じています。私は“優れた技術者”を目指します。その過程で、技術士の一員となることは私の目標の一環であると捉え、修習技術者として日々の研鑽に励む今日この頃です。

修習技術者としての抱負

喜連川 聡容（佐賀）

1. 技術士試験について

私は、大学院修士1年の時に技術士第一次試験に合格し、今年の4月に技術士補に登録しました。技術士補に登録したことにより、技術者への第一歩という感があり、さらに身が引き締まる想いです。その際の試験勉強には比較的早い段階で取り組みましたが、基礎科目、専門科目、共通科目のいずれも苦労しました。特に専門科目に関しては、私が大学で学んだ分野以上の幅広い知識を必要とされ、必死で勉強したことを覚えています。当時、私が技術士第一次試験に合格したことにより、周りの多くの仲間達が翌年の同試験にチャレンジしたことについては、良い刺激を与えられたのではと、大変嬉しく思います。

2. 今後の抱負

修習技術者としての今後の抱負としては、周囲の技術者の方々から学び吸収することから始まること

と思っています。日々の忙しさに負けず、技術的にも知識的にも勉強することを常に心掛け、若い時期に頭に叩き込めるだけ叩き込み、そういった中で資格取得にも積極的に挑戦していきたいと考えています。また、「仲間は財産」という言葉を胸に、様々な方々とのつながりを大事にしていきたいと思っています。そのつながりにより、多くのことを学んだり、感じたりすることができると思いますし、自分自身でできることには限界があり、仲間達との協力により大きな成果をあげられると思っています。

3. 技術者としての将来像

将来的には、まだまだ漠然としています。一人前の技術者を目指したいと思っています。私の「一人前の技術者」の定義は、専門的な技術力・幅広い知識は勿論のこと、他の者から尊敬され、慕われる技術者のことです。また、近年は地震等の災害が多発しており、そのような状況で力を発揮したり、社会の発展に貢献できたり、というような技術者になりたいです。そのような技術者を目指すためにも、技術士を取得することを今一番の目標としています。

逆転の発想

＜克雪・利雪・寒さ利用＞

了戒 公利（建設、工博・大分）

◆山古志村の冬 被災した屋根が雪の重みで破損し、家屋が倒壊したとのテレビのニュースが飛び込んできた、このように、屋根の雪下ろしは寒冷地域の冬の日課となっている。また、冬期の凍結融解により斜面が風化し崩壊する。大分地方には日本の半分の摩崖仏がある。凍結融解により顔が破損したり、手が取れたりしたりしている。悲惨な姿になっているものもある。このように、雪や寒さは害として捕らえられているのが一般的である。

◆最近では、雪や寒さを資源と逆に考え、積極的に利用する動きが活発になっている。昔から、雪の利用として、スキー等の観光利用が主であった。寒さについては、T社、N社などが寒冷地仕様の車を開発するために-40℃の厳寒の北海道陸別での走行テスト、凍った湖でのモーターレース、木々に消火栓から水を掛けつららをつくり、それをライトアップし水爆祭りとして幻想的な世界を作り出している。大分でも鶴見山山頂での氷柱にしがみつく等の寒さ我慢大会、このようななどの観光的な利用がある。

◆産業的な雪利用として、雪の冷熱オフィス内の冷房に貯雪した利用し、雪の効果を利用し、市民に喜ばれている。これは昔から氷室、雪室として小規模

に利用されていたものを大規模な利用にしたものである。さらに、雪の中に酒を貯蔵し、低温熟成させた酒が評判となっている。

◆寒さ利用として、土木技術の一つとして地盤凍結工法がある。地盤を凍結させ、その強度を利用して地中構造物を構築する補助工法である。東京湾アクアラインの建設に当たっても、直径16m（5階建てのビル）のシールドマシーンを海底下でドッキングするためにも採用された。この技術無しにはアクアラインの完成は不可能だったとも言われている。

◆さらに、凍った土を冷熱エネルギーとして利用例として、シベリアでは永久凍土に穴を掘り、捕った獲物を貯蔵する。地盤を凍結させるために、熱移動能力の高いヒートパイプを利用して積極的に地盤を凍結させ、それを冷熱源とした農産物用の低温貯蔵施設（宇宙人の古墳）も現れた。

◆九州においては、雪や寒さの利用は困難と思われるが、少子高齢化、都市一極集中に伴って荒れた田畑が棚田として見直されたり、荒れ果てた森林、竹林を里山として利用されている、さらに、歴史的建造物、遺構を中心とした町おこし（町のこし）が活発に行われるようになった。これらを景観として捉えたシーニックバイウエイなる言葉も現れている。逆転の発想によって新しい発見があり、町の活性化のヒントになると思われる。

（東洋技術株式会社 技術管理室室長）

私の健康学と健康訪

熊本県技術士会長 青山 次則（建設・熊本）

朝午前5時起床、寝床の片付け、用便、顔洗い、テレビのニュース・気象情報を見て5時30分我が家を出発、ウォーキング（約6km）1時間、6時30分よりラジオ体操20分、そして軽い鉄棒の運動をして家に帰るのが午前7時頃、家の回りの草取り・掃除して朝風呂に入るのが7時20分頃、7時30分頃朝食をとり、8時30分には家を出るという毎日の繰り返しです。このような生活のリズムをはじめたのが昭和40年頃と思いますので、約40年間このような朝の生活を続けており、今、八十路の坂を登り始めたところです。

私が朝のウォーキングをはじめた動機は、昭和38年頃、小学校6年生と4年生の長男と次男が、近々学校でマラソン大会があるので練習しているとの話を家内から聞き、それでは俺も一緒に走ってみようかと、子供と3人で走りました。勿論子供には遅れを取りましたが、身体を鍛えることは、教育上良いことであるので頻りに続けて走りなさいと悟したが、大会が終わ

ると子供はやめました。私は子供に言った手前もあり続けて走りまわったところ、昭和28年頃より悩まされていた坐骨神経痛の痛みがやわらいできました。これが朝のウォーキングを続けている大きな理由です。

先日、日経新聞を読んでいると次のことが書いてありました。

紀元前4世紀、アリストテレスが行きもどりしながら弟子達と論じ合った跡が発掘されたという。アポロンのリケイオンと呼ばれた学園である。

アリストテレスはソクラテスと並ぶ古代ギリシャの大哲学者である。アテネに学園を開き、園内を散歩しながら弟子達に講義をしたといわれる。その一派は{逍遥学派}と呼ばれた。

マルクスは書斎を歩きながら思索したという。日本の文人もよく散歩する。散歩には頭脳の体操という面があるのではないか。

私は、哲学の内容よりも散歩の効用、つまり歩くことが脳細胞を刺激して頭脳の働きを活発にするという俗説（あるいは真理）の方に興味が覚えました。

これからも頭と身体の体操を続けて行きたいと思っています。

会員ニュース

☆(社)日本技術士会(九州支部) 入会

(地区) (区分) (氏名) (部門)				(上段:連絡先/下段:勤務先)
				〈連絡先と勤務先が同じ場合、連絡先のみ〉
福岡	正会員	高橋 広志	上下水道:	〒815-0032 福岡市南区塩原 3-6-802 ☎(092)553-8630
			総合技術	(株)白水コン九州支所 ☎(092)741-5664
熊本	正会員	坂本 省吾	応用理学:	〒862-0911 熊本市健軍 3-35-1-601 ☎(096)360-4556
			総合技術	復建調査設計(株)熊本事務所 ☎(096)387-3555
長崎	正会員	川村 昭宣	建設:	〒850-0963 長崎市ダイヤランド 3-7-12
				川村技術士事務所 ☎(095)879-3850
福岡	正会員	鬼塚 諫	建設:	〒815-0048 福岡市南区若久団地28-301
			総合技術	(株)高崎総合コンサルタント ☎(0942)44-8338
福岡	正会員	田島 恒美	建設:	〒816-0953 大野城市旭ヶ丘 2-19-3
			総合技術	日本地研(株) ☎(092)596-3816
長崎	正会員	高木 辰治	建設:	〒857-0342 長崎県北松浦郡佐々町平野免670-20
			総合技術	藤永地建(株)技術本部 ☎(0956)62-6905
福岡	正会員	境 睦人	建設:	〒815-0034 福岡市南区南大橋 1-8-31
			総合技術	新日本グラウト工業(株) ☎(092)541-2504
鹿児島	正会員	田ノ上春雄	農業:	〒891-0102 鹿児島市星ヶ峯 2-19-14
			総合技術	鹿児島県加世田耕地事務所 ☎(099)264-2663
福岡	正会員	井上 道則	応用理学:	〒816-0981 大野城市若草 1-18-10
				(株)アイ・エヌ・エー九州支店 ☎(092)596-2738
佐賀	正会員	牛谷 逸朗	建設:	〒819-0024 福岡市西区十郎川団地21-2
			総合技術	日本建設技術(株)コンサルタント事業本部 ☎(092)881-6087
福岡	正会員	鈴木 一広	建設:	〒816-0943 大野城市白木原 4-9-24
				ありの実Ⅱ-307号 ☎(0955)64-2528
				(株)道路保全技術センター ☎(092)413-6811
大分	正会員	軸丸 恒宏	建設:	〒870-0883 大分市大字永興 9 組
			総合技術	大分県庁土木建築部 砂防課 ☎(097)546-8722
佐賀	正会員	盛永 保弘	農業:	〒840-0852 佐賀市中折町 5-3
				(株)親和コンサルタント技術部 ☎(097)537-2213
福岡	正会員	牧野 隆吾	応用理学:	〒813-0025 福岡市東区青葉 3-45-6-50
				日鉄鉦コンサルタント(株)九州支店 ☎(0952)22-6371
福岡	正会員	庄野 隆則	建設:	〒802-0084 北九州市小倉北区香春口 2-5-12
				ジェイアール九州コンサルタンツ(株)審査室 ☎(092)32-1348
福岡	正会員	碓 正敬	建設:	〒812-0021 福岡市博多区築港本町 9-15-506
				(株)東京建設コンサルタント九州支店技術 3 部 ☎(092)691-6921
鹿児島	準会員	江崎 秀司	機械:	〒899-5101 鹿児島県始良郡隼人町住吉1270-25
				鹿児島工業高等専門学校機械工学科 ☎(0948)22-0184
福岡	準会員	中村 秀光	建設:	〒818-0134 太宰府市大佐野935-13
				福岡市交通局建設部建設推進課 ☎(093)951-3535
鹿児島	準会員	前田 求	建設:	〒891-0203 鹿児島市喜入町6078-29
長崎	準会員	中原 勝俊	情報処理:	〒859-3223 佐世保市広田 1-22-5
				佐世保工業高等専門学校 ☎(092)262-7463
福岡	準会員	田中 幸人	建設:	〒819-0013 福岡市西区愛宕浜 2 丁目 2-6-402
				東亜建設技術(株)技術部 ☎(092)262-7311
宮崎	準会員	中島 進	衛生工学:	〒882-0034 延岡市昭和町 2-102 Mホース105
				旭有機材工業(株)新規開発本部 ☎(0995)42-7640
宮崎	準会員	川野 一哉	建設:	〒885-0086 都城市久保原町13-54-9
				南日本総合コンサルタント(株) ☎(0995)42-9108
福岡	準会員	白井 康生	機械:	〒811-0117 福岡県糟屋郡新宮町大字上府619-48
				西日本建技(株) ☎(092)925-7193
福岡	準会員	若松 豊	農業:	〒816-0095 福岡市博多区竹下 2-6-23 JR竹下寮A-705
				九州旅客鉄道(株)博多運転区 ☎(092)732-4248
長崎	準会員	伊東 了	建設:	〒850-0954 長崎市新戸町 3-16-11
				ハイツの石204号 ☎(0993)45-2373
				長興産業(株)土木部 ☎(0956)38-5062
				☎(0956)34-8480
				☎(092)892-0085
				☎(092)892-7716
				☎(0982)35-0900
				☎(0986)26-3066
				☎(0986)23-7721
				☎(092)963-4893
				☎(092)441-7676
				☎(092)412-0456
				☎(092)441-9789
				☎(095)879-2331
				☎(095)898-4421

佐賀	準会員	小倉 徳美	機 械	〒847-0017 唐津市東唐津 4 丁目 5-18	☎(0955)75-3669
佐賀	準会員	古田 寿裕	衛生工学	西日本プラント工業㈱玄海原子力第一事業所汽機グループ 〒819-1137 前原市南風台 2 丁目 4-12	☎(0955)52-6824
北九州	準会員	佐藤 博	情報処理	㈱九電工佐賀支店空調管技術部 設備グループ 〒822-0001 直方市感田2581-16	☎(0952)33-2011
熊本	準会員	倉岡 孝幸	農 業	福岡県立小倉工業高等学校電気科 〒869-1504 熊本県阿蘇郡南阿蘇村大字一関130	☎(0949)26-4839
長崎	準会員	松尾 徹 建	設	熊本県農業研究センター生産環境研究所施設経営研究室 〒857-0134 佐世保市瀬戸越 4-1319-3 グランデュア瀬戸越101号	☎(093)571-1738
大分	準会員	戸田 新矢	電気電子	㈱産研九州技術 2 課 〒870-1136 大分市光吉台23組397号 エルセゾン光吉301号室	☎(0967)62-9054
福岡	準会員	小川 光博	建 設	㈱NHKアイテック 〒811-3425 宗像市日の里 7-5-16 第 2 コーポシダ205	☎(096)248-6447
熊本	準会員	滝口 靖史	経営工学	青木あすなろ建設㈱技術本部技術部 〒862-8007 熊本市龍田弓削 1-15-55 パークサイド206号	☎(0956)40-8549
宮崎	準会員	南野 達雄	上下水道	東京エレクトロン九州㈱クリーントラック事業メカ技術部門 〒883-0062 日向市大字日知屋16350-4 都ハイツ302	☎(0956)49-5577
鹿児島	準会員	若松 幹雄	建 設	清本鉄工㈱製品開発部 〒891-0105 鹿児島市中山町1605-5	☎(0982)53-5343
鹿児島	準会員	西ノ園憲志	建 設	㈱大亜測量設計 〒891-0133 鹿児島市平川町3785-2	☎(0982)24-1111
鹿児島	準会員	内村 博伸	建 設	㈱大亜測量設計 〒892-0871 鹿児島市吉野町5453-7	☎(099)251-2111
福岡	準会員	三苦 達久	環 境	㈱大亜測量設計 〒813-0005 福岡市東区香椎 1-15-6-103	☎(099)251-2111
鹿児島	準会員	中村 一人	建 設	S P P㈱ 〒890-0045 鹿児島市武 1-15-24	☎(092)681-6680
佐賀	準会員	吉永 幸治	建 設	協和建設㈱ 〒848-0045 伊万里市松島町915 エクセランU103号	☎(092)603-2775
宮崎	準会員	戸敷 泰士	建 設	伊万里市役所産業部農林水産課 〒880-0121 宮崎市島之内7466-1 グリーンハートヒロ301号	☎(099)253-5277
北九州	準会員	田島 寛之	建 設	㈱戸敷開発 〒824-0003 行橋市大橋 3-4-6	☎(090)8919-8716
福岡	準会員	西村 勲	電気電子	竹下総合設計㈱ 〒810-0055 福岡市中央区黒門 2-8 アクエリアス大濠302号	☎(0955)23-2111
鹿児島	準会員	鋤田 伸行	電気電子	㈱三水コンサルタント西部支社技術部 〒899-3221 鹿児島県日置郡吹上町永吉14143-5	☎(0985)74-1502
北九州	準会員	林田 勝博	建 設	㈱J P ハイテック中部カンパニー技術グループ 〒803-0844 北九州市小倉北区真鶴 2 丁目 9-1 シャルム真鶴308	☎(0930)22-1649
福岡	準会員	橋口 幸男	情報処理	㈱中央補償コンサルタント 〒813-0016 福岡市東区香椎浜 4-1-11-307	☎(0930)23-5000
鹿児島	正会員	西山 哲郎	建 設	㈱安川電機ロボティクスオートメーション事業部ロボット工場開発部開発第 2 課 〒802-0871 鹿児島市吉野町2789-3	☎(092)672-4359
				㈱中村測量設計	☎(093)645-7710
					☎(099)243-8678 FAX(099)220-6201
					☎(099)218-3041

☆会員連絡先（住所）および勤務先変更

（地区）（区分）（氏名）（部門）（変更）

福岡	正会員	大和 則夫	建 設	勤：〒810-0801 福岡市博多区中洲 5 丁目 6-20明治安田生命福岡ビル 6 F ㈱東京建設コンサルタント九州支店	☎(092)262-7311 FAX(092)262-7317
福岡	正会員	鶴田 益平	建 設	勤：同 上	
福岡	正会員	鶴田 芳昭	建 設	勤：同 上	
福岡	正会員	梅本 恭介	建 設	勤：同 上	
福岡	正会員	桑原 洋一	建 設	勤：同 上	
福岡	正会員	豊崎 貞治	総監 建設	勤：同 上	
福岡	正会員	福元秀一郎	総監 建設	勤：同 上	

福岡	正会員	福山 博親	建設	勤 :	同上		
福岡	正会員	堀川 光治	総監建設	勤 :	同上		
福岡	正会員	松浦 元哉	総監建設	勤 :	同上		
福岡	正会員	宮崎 正和	建設	勤 :	同上		
福岡	正会員	宮田 英樹	建設	勤 :	同上		
福岡	正会員	宮原 諄	建設	勤 :	同上		
鹿児島	正会員	新山 庄一	建設	連 :	〒890-0021 鹿児島市小野 2-11-21	☎・FAX(099)229-4625	
				勤 :	〒892-0848 鹿児島市平元町 1-26		
					朝日開発コンサルタンツ(株)	☎(099)226-6800	FAX(099)226-6091
福岡	正会員	水上 信照	建設	連 :	〒815-0034 福岡市南区南大橋 1-27-10	☎・FAX(092)551-1840	
宮崎	正会員	満留 康裕	建設	勤 :	〒885-0024 都城市北原町24-21		
			総合		: 宮崎県都城土木事務所道路課	☎(0986)23-4513	FAX(0986)24-3755
鹿児島	正会員	四元 節夫	農業	勤 :	〒890-0066 鹿児島市真砂町50-5		
					: (株)黒岩設計事務所	☎(099)256-9977	FAX(099)256-9978
福岡	正会員	長 孝良	衛生工学	勤 :	〒815-0081 福岡市南区那の川 1-23-35		
			総合		: (株)九電工営業本部空調管設計部	☎(092)524-8189	FAX(092)523-1976
福岡	正会員	田代 幸英	建設	連 :	〒816-0845 春日市白水ヶ丘 2丁目148	☎・FAX(092)575-6172	
				勤 :	〒810-0004 福岡市中央区渡辺通 2-1-82		
					九州電力土木部	☎(092)726-1753	
長崎	正会員	古川 信之	化学	勤 :	〒857-1193 佐世保市沖新町 1-1		
					: 国立佐世保工業高等専門学校物質工学科		
福岡	正会員	今岡 浩司	衛生工学	勤 :	〒816-0845 春日市白水ヶ丘 2-1-302		
					: 九電工福岡支店ビルエネルギーソリューション部	☎(092)523-6132	
福岡	正会員	松井 隆昌	農業	連 :	〒813-0044 福岡市東区千早 3-1-11 香椎東映マンション 201		
福岡	正会員	武林 和彦	建設総合	連 :	〒815-0036 福岡市南区筑紫丘 1-2-403		
熊本	正会員	勇 秀忠	建設	連 :	〒862-0903 熊本市若葉 2-15-25 モナーク秋津207号		
				勤 :	〒861-2102 熊本市沼山津 4-2-22		
					(株)大進コンサルタント		
大分	正会員	甲斐 辰美	建設	勤 :	〒877-1353 日田市大字西有田256-5		
					: (株)アース・エージェンシーコンサルタント	☎(0973)23-0579	FAX(0973)23-4860
熊本	正会員	森 弘光	建設	連 :	〒866-0084 八代市植柳新町 2丁目25-2-3	☎(090)5920-5705	
福岡	正会員	元田 啓一	建設	勤 :	〒872-0311 大分県宇佐郡院内町大字香下184-2		
					: (株)東九州コンサルタント	☎(0978)42-5118	FAX(0978)42-6191
福岡	正会員	鹿島 脩一	電気電子	連 :	〒818-0068 筑紫野市石崎 3丁目16-10		
大分	正会員	足立 高行	環境	勤 :	〒870-0854 大分市大字羽屋185-1 第2竹山ビル 2F		
					: L A T応用生態技術研究所	☎(097)546-6788	
福岡	正会員	松岡 弘文	建設	連 :	〒815-0031 福岡市南区清水 2-20-1-401		
				勤 :	〒810-0041 福岡市中央区大名 2-4-30 西鉄赤坂ビル 4F		
					クイント企画(株)九州営業所	☎(092)771-6981	FAX(092)771-3086
大分	正会員	原 千砂子	環境建設	連 :	〒870-0026 大分市金池町 1-9-18-1-1206	☎・FAX(097)534-9550	
神奈川	正会員	牧 君明	建設	連 :	〒240-0024 横浜市保土ヶ谷区瀬戸ヶ谷町277 サンテラス瀬戸ヶ谷102	☎(045)742-1522	
				勤 :	〒140-0002 東京都品川区東品川 3-32-20		
					グリーン・コンサルタント(株)	☎(03)5715-7270	FAX(03)5715-7271
大分	正会員	橋内 和夫	建設	勤 :	〒871-0025 中津市大字万田602-2		
					: 日進コンサルタント(株)設計部	☎(0979)24-5436	FAX(0979)22-3448
大分	正会員	田代 末信	建設	勤 :	〒870-0022 大分市大手町 2-3-12(大分県市町村会館)		
					: (株)大分県土地区画整理協会	☎(097)536-1170	FAX(097)536-3679
熊本	正会員	森 弘光	建設	連 :	〒866-0084 八代市植柳新町 2丁目25-2-3	☎(090)5920-5705	
福岡	正会員	諸藤 元信	建設	連 :	〒816-0971 大野城市牛頸 4-1-8	☎・FAX(092)589-2722	
				勤 :	〒812-0013 福岡市博多区博多駅東 2-14-1		
					(株)ミヤマ工業九州出張所	☎(092)418-1835	FAX(092)418-1836
福岡	正会員	梁木 英寿	設計	勤 :	〒815-0031 福岡市南区清水 4-3-1		
			上下水道		福岡地区水道企業団	☎(092)552-1733	FAX(092)552-1729
福岡	正会員	齋藤 清美	衛生工学	勤 :	〒816-0922 大野城市山田 1-2-5		
					: 九州環境技術研究所	☎(092)573-7776	FAX(092)573-7786

御協力いただいている 賛 助 会 員

……………〔福岡〕……………	大和コンサル(株)	西日本コンサルタント(株)
日本総合コンサルタント(株)九州支店	アジアエンジニアリング(株)	東洋測量設計(株)
(株)建設環境研究所	……………〔北九州〕……………	九建設計(株)
(株)唯設計事務所	日本航測(株)	日進コンサルタント(株)
日本建設コンサルタント(株)九州支店	(株)九州設計事務所	ダイエーコンサルタント(株)
中央開発(株)九州支社	九和設計(株)	……………〔宮崎〕……………
(株)ダイヤコンサルタント九州支社	(株)都市開発コンサルタント	(株)弓場水工コンサルタント
日本工営(株)福岡支店	(株)松尾設計	(株)ロードリバーコンサルタント
昭和地下工業(株)	(株)酒見設計	(株)ケイディエム
第一復建(株)	(株)太平設計	(株)親協
(株)松本組	冷牟田設計コンサルタント(株)	南日本総合コンサルタント(株)
(株)エスケイエンジニアリング	環境テクノス(株)	(株)宮崎産業開発
(株)福山コンサルタント	……………〔佐賀〕……………	(株)西田技術開発コンサルタント
(株)東京建設コンサルタント九州支店	(株)精工コンサルタント	(有)福島測量設計調査事務所
東邦地下工機(株)	新九州測量設計(株)	九州工営(株)
大成ジオテック(株)	西日本総合コンサルタント(株)	正栄技術コンサルタント(株)
富洋設計(株)九州支社	日本建設技術(株)	(株)東九州コンサルタント
九州建設コンサルタント(株)福岡支店	(株)九州構造設計	(有)日豊測量設計事務所
(株)サンコンサル	新栄地研(株)	日測コンサルタント(株)
(株)橋梁コンサルタント福岡支社	……………〔長崎〕……………	(株)水理設計
(株)アイ・エヌ・エー九州支社	大栄開発(株)	(株)ダイワコンサルタント
(株)九州地質コンサルタント	(株)実光測量設計	(株)白浜測量設計
(株)タイヨー設計	西日本菱重興産(株)	(株)杉田測量設計コンサルタント
日鉄鉱コンサルタント(株)九州支店	太洋技研(株)	南興測量設計(株)
(株)大建	(株)親和テクノ	(株)アップス
(株)エス・ビー・エンジニアリング	(株)新栄設計事務所	(有)カツキ技術士事務所
新地研工業(株)	……………〔熊本〕……………	(株)共同技術コンサルタント
(株)カミナガ	(株)九州開発エンジニアリング	(株)国土開発コンサルタント
平和測量設計(株)	アジアプランニング(株)	(株)都城技建コンサルタント
(株)高崎総合コンサルタント	……………〔大分〕……………	(株)第一テクノコンサルタンツ
西日本コトラクト(株)	松本技術コンサルタント(株)	……………〔鹿児島〕……………
西鉄シーイーコンサルタント(株)	協同エンジニアリング(株)	中央テクノ(株)
日本地研(株)	(株)日建コンサルタント	朝日開発コンサルタンツ(株)
第一設計(株)	東亜コンサルタント(株)	(株)久永コンサルタント
九州環境技術研究所	九州特殊土木(株)	コーアツ工業(株)
西日本技術開発(株)	大洋測量設計(株)	大協(株)
(株)富士ピーエス	九州建設コンサルタント(株)	(株)建設技術コンサルタンツ

平成17年度定時総会開催される。

去る5月28日午後1時～5時に、博多パークホテルで(株)日本技術士会九州支部・九州技術士センターの平成17年度第40回定時総会が開催されました。

支部:会員982名のうち出席者81名、委任状提出470名

センター:会員1524名のうち出席者95名、委任状750名

いずれも規約に定められている以上の出席が確認され、総会は成立いたしました。

支部及びセンターの役員改正が行われ、新支部長

に光岡 毅氏、新副支部長に池田義實氏(留任)、是永逸生氏(留任)、藤永正弘(留任)、甲斐忠義氏(新任)、顧問に泉館昭雄氏が選出されました。

新センター会長に小出 剛氏、新センター副会長に吉良文至(留任)、木下茂廣氏(留任)、顧問に水上信照氏が選出されました。

新理事決まる

先般行われました理事選挙の結果、九州支部より是永逸生氏が理事に選出されました。

会誌“技術士”最近の主要目次

【P E】技術士3・2005

- ・引き継ぐもの、変えるもの／古山昌之
- ・国際協力と環境倫理／森島啓司
- ・水環境における水質基準改定について／高橋淳子
- ・構造ゲノム化学の進展とその応用／柿谷 均
- ・光触媒と環境浄化／西川貴志
- ・日本歯科医師会における生涯研修事業について／村居正雄
- ・第24回地域産官学と技術士との合同セミナー(福岡)／甲斐忠義
- ・技術融合センターの紹介／大塚敬介
- ・平成16年度第5回理事会報告

【P E】技術士4・2005

- ・グローバルに活躍する技術者に／有信睦弘
- ・循環型社会構築に向けて－メタンストックシステム－／和田清美
- ・ITILにおけるITサービスマネージメント／小泉 浩
- ・プロジェクト・マネージャーの国際資格PMP®とPDプログラム／清水計雄
- ・新春記念講演会 これからの日本経済／三重野康
- ・カンボジア王国第2次グリーンテクノロジー研修報告／高城重厚
- ・'04地域産官学と技術士合同セミナー／米塚 功
- ・第21回中小企業問題研究会・交流会開催結果／中小企業交流実行委員会

【P E】技術士5・2005

- ・鉄道彼の国この国／副島廣海
- ・製造物事故と技術者倫理／植木正憲
- ・世界初の商品化を実現した家庭用燃料電池と今後の取組み／円角健一
- ・技術士の地域貢献／高橋 弘二
- ・「失敗学は高等の応用能力を涵養する」畑村洋太郎教授の講演要旨／福本宗樹
- ・薬剤師の生涯研修と認定制度／平井俊樹
- ・会長表彰制度の変更について

編集後記

去る3月20日に福岡西方沖地震が発生し、玄界島をはじめ広域にわたり多大の被害をもたらしました。また、去る4月25日には尼崎JR西日本脱線事故が発生し、107人の方が亡くなり、500人以上の負傷者が出ました。いずれも「まさか〇〇でこのような△△が発生しようとは」と多くの方が感じられたのではないのでしょうか。後者の尼崎の事故については、現在原因究明が進んでおりますが、様々な問題を投げかけています。この事故を教訓として、日々の仕事、技術士としての責務について今一度考えなおしたいものです。

CPD登録及び登録証明書の発行が有料になります。CPDもその内容・講師陣等について委員会が十分な検討を踏まえ、密度の高いものになってきています。できるだけ多くの皆様のご出席をお願いいたします。

6月に支部・センターの新体制が発足しました。これまで理事、支部長、センター会長としてご尽力いただきました小出理事、泉館支部長、水上センター会長に厚くお礼を申し上げます。

(棚町)

発行：(株)日本技術士会九州支部

九州技術士センター

〒812-0012 福岡市博多区博多駅中央街7-1

(シック博多駅前ビル204)

九州支部： ☎(092)432-4441

FAX(092)432-4443

E-mail: engineer@joho-fukuoka.or.jp

九州支部ホームページ URL:

http://www.joho-fukuoka.or.jp/kigyo/engineer

センター： ☎ / FAX(092)432-4443

印刷：(株)川島弘文社